

■ EUエコラベル策定活動始動

■ 新玩具安全指令関連ガイドライン進行中

■ 安全キャップ・安全尾栓のISO提案に賛否

EWIMA 技術委員会ミュンヘン会議 2010年10月6日報告
塩井恵子技術国際委・製品安全小委部会長

1. 筆記具に関するEUエコラベルについて

ヨーロッパでは各国が独自のエコラベル基準を作っているが、現在EUで各分野別に統一したEUエコラベル規定を作ろうという動きがあり、EWIMA も筆記具の統一エコラベル基準案を自分たちで作る、EUに提案しようという活動を開始している。

EWIMA メンバーで有志を募って、これまでに6回会合を持ち、原案を作成中とのこと。（そのメンバーには㈱パイロットコーポレーションも入っている。）EWIMA が提案して、それをEU規定のたたき台として使ってくれるという保証は無いのだが、早く作ればたたき台になる可能性は高いと事務局は急いでいる様子だった。

2. 欧州の玩具安全性

EN71-3（フタル酸エステル6種類の使用に対する規制を含む）の化学物質規制が発効するのは2013年からで、今のところ新しい情報（進展）はなかった。新玩具安全指令関連のガイドラインは作成が進んでいる。

3. 標準化関連

ISO/TC10/WG18 関係の報告を塩井恵子氏（WG18 コンビナー）が行った。1つは、筆



記具関係 ISO 規格の5年見直し投票結果の報告で、5件の見直し投票（ISO 9177-1, -2, -3, ISO 9180, ISO 9175-1）はすべて「確認」で承認された。この中で日本とオランダからコメントの付いた ISO 9177-1（Mechanical pencils – Part 1）については、Part 2, Part 3と定義の表現が統一されていないため、Part 2, 3と一致させ「製図用」であることを明確にすることが承認された。（修正つき確認）

もう1つは、イギリスからの安全キャップ・安全尾栓に関する ISO 提案の件で、これはEWIMA メンバーも関心が高く、8月期限の投票結果でプロジェクトとして採択され、今後ISO/WD 11540-1, -2（作業原案）として審議の対象にあがってくることの報告を行った。6月にスイスで行われた ISO/TC10/WG18 meeting では、「日本ではこのような事故例は

今までないし、ペンキャップを噛んだり吸ったりする習慣は無い」と発言したことを伝えると、会場から拍手があり、同じヨーロッパでもイギリスの提案を良しとっていない国があることが分かった。この件のプロジェクトリーダーは、EWIMA メンバーの Ruderman 氏（サンフォードUK）が務めることになっており、まず原案を ISO タイプの書式に作り変えることになっている。日本は、今後 EWIMA とも連携を取りながら、この件について ISO/TC10/WG18 meeting で討議していくこととなる。

※次回の EWIMA 技術委員会は、2011 年 1 月 31 日フランクフルトで開催される。ISO/TC10/WG18 は、2011 年 6 月 16 日から 22 日の間にベルリンで行われる ISO/TC10 会議の中で開催される。



JWIMAホームページがリニューアルします

会員、文具流通、一般ユーザー、マスコミから広く活用いただいている JWIMA ホームページがますます充実します。ひとつは「ボールペンの仕組み」。ボールペンの便利さ快適さのメカニズムを紹介し、同時に、ふさわしくない使用方法もイメージできるように構成しました。もうひとつは、「ゲルインキボールペン レフィル互換表」を新たに掲載しました。とくに文具販売に携わる方々からのご要望を受けて作成しました。顧客サービスに役立てていただくことを期待しています。

1. 筆記具お役立ち情報「ボールペン」コーナー充実！ 11月中にUP

1. ボールペンのしくみについて
 - ・ 中の構造はどうなっているの？
 - ・ どうして書けるの？
 - ・ ボテはなぜ起きるの？
2. ボールペンで書くときのあれこれ
 - ・ ボールペンの適正角度って？
 - ・ 途中で書けなくなるときがあるのはどうして？
 - ・ 先端部からの空気の巻き込み、他
3. ボールペンの取り扱いについて
 - ・ 持ち運び、保管について
 - ・ キャップを必ず閉めてください
 - ・ ノックは必ず戻してください
 - ・ 持ち運び
 - ・ 保管
 - ・ ペン先を傷つけると書けなくなる場合があります、他
4. ボールペンのインキについて
 - ・ 油性・水性・ゲルってどう違うの？
 - ・ 油性ボールペンの特徴
 - ・ 水性ボールペンの特徴

click→ <http://www.jwima.org/pen/ballpen.html> (11月末から)



2. 筆記具お役立ち情報「ボールペン」ゲルインキボールペン レフィル互換表掲載 新掲載

ボールペン部会にてゲルインキボールペン レフィルの互換表を作成しました。ご利用下さい。

click→ http://www.jwima.org/pen/refil_gel.xls

22年第3第四半期委員会・部会活動報告

(平成22年7月1日～10月31日)

<総務 関係>

- 7. 9 書育推進協議会運営委員会
 - ・第1回通常総会開催について
 - ・会報「書育」第2号について
 - ・その他
- 9. 22 書育推進協議会運営委員会
 - ・「書育」ホームページリニューアルについて
 - ・書育実践研究会報告について
 - ・長崎大学「書育&音育コラボ」について
- 9. 29 総務委員会(平成22年度第3回)
 - ・平成22年度秋～年末行事について
 - ・平成22年度第3回理事会運営について
 - ・総務委員会 H22 年度上期活動報告について
 - ・本工業会 H22 年度上期収支報告について
 - ・新規会員加入の件について
 - ・「書育」活動報告について
- 10. 19 書育推進協議会運営委員会
 - ・「書育」ホームページリニューアルについて
 - ・長崎大学「書育&音育コラボ」について

<調査研究・広報 関係>

- 7. 13 調査研究・広報委員会(平成22年度第2回)
 - ・2010JWIMA 技術交流会の反省について
 - ・「万年筆」お役立ち情報について
- 8. 26 調査研究・広報委員会(平成22年度第3回)
 - ・「万年筆」お役立ち情報について
 - ・その他
- 10. 14 調査研究・広報委員会(平成22年度第4回)
 - ・「万年筆」お役立ち情報について
 - ・その他

<流通 関係>

- 7. 29 お客様相談窓口連絡会(平成22年度第2回)
 - ・各社のお客様対応事例について
 - ・お役立ち情報(ボールペン編)の見直しについて
- 9. 9 お客様相談窓口連絡会(平成22年度第3回)
 - ・各社のお客様対応事例について
 - ・お役立ち情報(ボールペン編)の見直しについて
- 9. 29 流通小委員会(平成22年度第1回)
 - ・2010年カタログ実態調査について

・その他(情報交換)

<技術国際 関係>

- 7. 15 マーキングペン部会(平成22年度第2回)
 - ・ラインマーカー(蛍光ペン)業界基準の作成について
 - ・ISO/TC10/WG18 meeting(ストックホルム)に関する報告
 - ・その他
- 8. 20 製品安全小委員会(平成22年度第2回)
 - ・筆記具の安全基準について
 - ・安全キャップ・尾栓への日本コメント(ISO JTE-デソ会議)について
 - ・安全性関連情報について
- 9. 8 万年筆部会(平成22年度第1回)
 - ・JIS S 6025(万年筆及びそのペン先)の5年見直しについて
 - ・その他
- 9. 28 事務用修正液部会(平成22年度第3回)
 - ・JIS S 6055(事務用修正液)の見直しについて
 - ・修正テープ規格化の検討
- 9. 30 技術国際委員会(平成22年度第1回/電子メール会議)
 - ・H22年度上期各部会活動報告について
 - ・国際標準提案活動報告について
- 10. 19 マーキングペン部会(平成22年度第3回)
 - ・ラインマーカー(蛍光ペン)業界基準の作成について
 - ・ISO/WD 11540-1,-2(安全キャップ・尾栓)に関する経過報告
 - ・EWIMA 技術委員会(10/6:ミヨハリ)出張報告

<全文協との共催 関係>

- 7. 7 合同知財部会
- 7. 8 模倣品対策セミナー
- 8. 3 知財リーダー会議
- 9. 17 知財三団体交流会

第7回「JWIMA会員研修会」実施

第1部 経済産業省 一柳錦吾氏「身近な統計を用いた産業分析の手法」
 第2部 鹿児島国際大学 千々岩弘一教授「国語科書写指導の新展開」
 東京・柳橋 ベルモントホテルにて

JWIMA は、情報の共有と会員の親睦を目的に、10月26日、第7回「会員研修会」を東京・柳橋のベルモントホテルで開催しました。今回は時代を先取りする手法を、統計分析を専門とされる経済産業省の一柳錦吾さんに、初等教育を専門とされる鹿児島大学の千々岩弘一教授に学びました。会場は63名の会員でほぼ満席。研修会終了後には懇親会で親交を深めました。



**身近な統計を用いた産業分析の手法について
 ～文具の分析事例と分析手法の紹介～
 一柳 錦吾 氏 経済産業省 製造産業局車両課
 (前日用品室室長補佐)**

一柳さんは、「統計を用いた産業分析の手法」と題する約50頁のテキストを全員に用意くださって、分析の基礎となる統計資料の種類と見つけ方、エクセル上での活用方法といった入門から分析法を教示くださいました。また後半では、文房具製造業を取り上げ、工場の多国籍化による分析データの変化、マーケットのグローバル化による成長力の変化といった具体的事例を紹介くださって、結論において「国内の空洞化議論もあるが、産業の成長性はグローバル化対応が鍵をにぎっているということが統計分析から結論付けられる」と締めくくりました。



**国語科書写指導の新展開
 ～多様な筆記具活用の重視～
 千々岩弘一 氏 鹿児島国際大学・大学院
 社会福祉学研究所 教授
 (文部科学省 学習指導要領改訂協力者メンバー)**

千々岩教授は、多忙な公務を縫って直前に羽田に到着。「国語書写指導の新展開-多様な筆記具活用の重視-」と題する貴重な資料を携えて講演くださいました。はじめに、書写教育が重視されるようになった背景のひとつとして、日本の



児童生徒に言語力の低下があるのではないかという評価が、国際的な学力試験においてなされたことを紹介くださいました。これを受けて自分の考えをどしどし主張できるような「言語力の育成」が重視されているのです。具体的には、学習指導要領(初等教育)において、「筆記についても、硬筆や毛筆などを適切に選択したり組み合わせたりすることが求められる」、「各教科等の学習や社会生活における文字を書く目的や必要に応じて、その書体や筆記具を選択しつつ効果的な文字の書き方を工夫することである」「文字を手書きすることの意義に気付かせ、併せて、文字文化に関する認識を改めて形成させるとともに…」と明記されています。教授は、「サプライズのある筆記具を皆さんがつくってくれることを期待します」と業界を奮起させてくださいました。



＜研修会講演にあたって＞

身近な統計を用いた産業分析の手法について ～
文具の分析事例と分析手法の紹介～
－統計を柔軟に活用すれば、未来に向け方向性を
示してくれる－
一柳 錦吾氏 経済産業省 製造産業局車両課
(前日用品室室長補佐)

我が国は、これまでの低成長経済や長引くデフレに加え、今後、本格的な人口の減少、少子・高齢化など大きな社会構造の変化を迎えつつあります。日用品産業では、これまでの間、国内製造拠点の海外移転が進みましたが、筆記具など文具の製造業では比較的国内にも製造基盤を残しています。しかし、2009年から始まった世界的な経済危機により、市場環境も激変し、企業は世界レベルで成長戦略の再構築に迫られつつあります。こうした内外の環境変化に対応し、現状に加え中長期課題に対処していくためには、各種データを活用・分析し冷静に評価を加えて行動を起こしていくことが重要です。統計調査を始め各種のデータは、表の並んだ数値をみただけでは、知覚への感受力は限られたものとなります。各種の分析手法を用いてその要因を求め、グラフなどビジュアル化することによって、より多くの人の感銘度を高め、確度の高い方向性を示してくれるものと考えております。本内容は、筆記具関連の統計を中心に分析事例の紹介とこれまで活用されていない試行的な分析手法を含め、わかりやすく説明・紹介し、会社内で実践、活用され、各社様の御発展に役立てればと考えております。

＜研修会講演にあたって＞

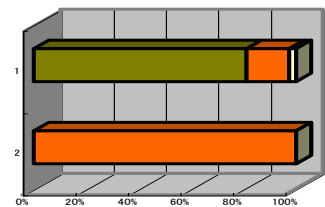
国語科書写指導の新展開 －多様な筆記具活用の
重視－
千々岩弘一 氏 鹿児島国際大学・大学院
社会福祉学研究科 教授
(文部科学省 学習指導要領改訂協力者メンバー)

書写指導(文字を正しく整えて書く能力の育成指導)は、国語科教育の一環として位置付けている。これまでの「書写」指導は、ややもすると毛筆を使って文字を書くこと(「毛筆書写」)に終始し、学校教育や日常生活で必要とされる鉛筆やボールペン、サインペン、筆ペンなどを使って文字を書くこと(「硬筆書写」)の指導が十分ではなかった。この反省に立ち、学校教育の指針となる新「学習指導要領」(平成20年3月告示)では、国語科をはじめとする学校教育の多様な学習活動や日常生活に役立つ硬筆書写能力の育成を目指して、多様な筆記具を活用した書写学習が展開されるよう改訂を行った。また、新「学習指導要領」では、各教科の学力を高めるために、思考活動などを促進する“書くこと”を授業の中に積極的に取り入れる必要性を強調している(「言語活動の充実」)。この趣旨を実現するためには、多様な筆記具を活用して文字を手書きすることの能力を高めることが不可欠である。この点から見たとき「書育」推進の社会的意義は高い。本研修会では、以上のような点に関してお話し上げたい。

第7回JWIMA研修会アンケート結果

(問) 各講座のレベルはどうでしたか？

	難しかった	ちょうど良かった	もの足りなかった
1. 産業分析の手法	30人	6人	1人
2. 国語科・書写指導の新展開	0人	36人	0人



(問) その他ご意見・ご要望などありましたらお書きください。

- ・分析手法(作法)について、参考になりました。
- ・両講演とも楽しく聴かせて頂きました。統計は今後活用していきたいです。
- ・書写指導の筆記に関して、とても参考になりました。千々岩先生のお話も大変面白く、また機会がありましたらよろしく願い致します。内容の濃い、非常に充実した講義をありがとうございました。今後の業務に積極的に活用したいと思っております。
- ・国語書写の新展開については良く理解できました。
- ・書写指導の新展開→おもしろかったです。
- ・JWIMA会員企業から専門家(社員)を迎えての研修会もそれなりに高い意義があり継続企画は必要ですが、今回の2講座の演題は、専門企業家には出来ない内容で非常に良かったです。一柳先生の作られたデータがご本人からの許可が得られるならば JWIMA のホームページにシリーズで掲載されますと会員企業への貴重な情報・財産になりますが、千々岩先生のテキストに掲載の南日本新聞社のコラム「南点」の「書育推進の意義」の内容が本日の2講座の全てを物語っているように感じました。

これからの JWIMA

11月17日(水) 工場見学会

日本筆記具工業会、日本鉛筆工業協同組合共催
見学先 ①宇宙航空研究開発機構(JAXA)筑波宇宙センター(茨城県つくば市千現 2-1-1)
②有限会社筑波ハム(茨城県つくば市下平塚 383)③国土地理院「地図と測量の科学館」(茨城県つくば市北郷1番)

日時 11月17日午前9時、鉛筆会館前マイクロバス発、午後5時頃、日暮里駅着
参加費 10,000円(往復の交通費・昼食代・参加記念品代を含む)

参加者募集中

12月1日(水)

JWIMA講演会・懇親会

会期 平成22年12月1日(水)
午後5時～講演会 6時20分～懇親会
会場 上野精養軒

講演会講師 松永真理さん(バンダイ社外取締役・エディター)

松永真理さん:「とらばーゆ」編集長の仕事が評価され、企業経営者として、政府系会議の委員として、人気のエディターとして八面六臂の活躍中。今回のテーマは「感性をカタチに～iモード開発の事例から～」。



参加者募集中

12月22日(水)・23日(祝日)

児童・保護者 みんなでつくる教育フォーラム

長崎大学「書育&音育」(長崎にて)

本工業会は事業活動の一つの柱として、「手で書く」ことを啓発する「書育」活動を、教育的立場で意を同じくする先生方と共に、書育推進協議会を結成して展開しています。協議会の中心的な役割を担っている鈴木慶子長崎大学教育学部教授は、自ら学籍する長崎大学と同大付属小学校へ「書育」の重要性を提案し、これが採択されて「書育&音育」イベントとして12月22・23日に実現します。大学催事の一つの形式として、また大学と地域が交流するひとつの方法として、他の大学への広がりが期待されます。



12/22(水)	12/23(祝)
<ul style="list-style-type: none"> ・書育教材を用いた「手紙」の公開授業 ・「手紙」をテーマとしたワークショップ ・ドラムサークル、トーンチャイムと合唱 	<ul style="list-style-type: none"> ・講演「ノートのカ」 ・ドラムサークル、トーンチャイムを用いたワークショップ ・サプライズコンサート「おどるエンピツ」

主催:長崎大学、「書育&音育」実行委員会
協賛:書育推進協議会、(株)鈴木楽器製作所、(株)絃洋会楽器店、ヤマハミュージックトレーディング(株)
後援:長崎県教育委員会、長崎市教育委員会、諫早市教育委員会、長与町教育委員会、時津長教育委員会、長崎放送、長崎新聞社、日本経済新聞社、教育家庭新聞社、文字・活字文化推進機構

第7回 JWIMA会員親睦ゴルフコンペを開催

=報告=



9月25日(土)第7回JWIMA会員親睦ゴルフコンペを埼玉県比企郡鳩山町の「石坂ゴルフ倶楽部」にて開催しました。

参加者は13名(4組)で、優勝は(株)日本万年筆製造所の岡本信一さんでした。



次回からはご意見を取り入れハンデキャップ制に移行する予定です。皆様のご参加をお待ち申し上げます。

報告 書育推進協議会活動から

8月19日 第一回通常総会、 「書育フォーラム2010」開催



書育推進協議会は、8月19日、港区芝の「女性と仕事の未来館」で、「第1回通常総会」を開催。続いて、公開講座「書育フォーラム2010」を開催しました。

書育フォーラムでは「改定常用漢字表」（平成22年6月7日答申）の審議にあられた林 史典先生をお招きし、「情報化と漢字—「改定常用漢字表」の意義—」をご講演いただきました。

第1回通常総会は、午後2時から開催。当日出席と委任状出席をあわせて6割超の出席を得て、総会としての定数を満たしました。開会の挨拶に立った久米 公会長は、総会の開催を「天の時、地の利、人の和」の語を引用して謝意を表し、「書育推進への思いをいっそう固くしていきたいと考えている次第です」と締めくくりました。

続いて、久米会長を議長に2つの議案を審議しました。第1号議案は「平成22年度事業報告及び収支決算関係書類承認の件」、第2号議案は「平成22年度事業計画及び収支予算決定の件」。共に満場一致で承認されました。

総会を締めくくって小野 博副会長が挨拶。「7月に沖縄に講演に行った。沖縄タイムズという地元紙が『書育報道を見て』という記事の特集していた。協議会は地味な集まりだが、こうして報道の理解を得て徐々に浸透していくことを実感した。これからも会の発展のために努力していきたい」と意欲を述べました。

休憩をはさんで「書育フォーラム2010」を開催。林 史典先生から、「書き手の気持ちまでも伝達できる『手書き文字』の持つ要素を大切にするためには、情報化社会に対応した手書き教育に関する理念と方針をもって臨む必要があるのではないのでしょうか」と書育推進を力強く応援くださる発言を頂戴しました。

講演 書育フォーラム2010

情報化と漢字—「改定常用漢字表」の意義—
文化審議会委員 林 史典先生 =抜粋=

平成22年8月19日 女性と仕事の未来館にて

（機器の文字と手書きの文字）

情報化時代に対応する漢字政策の在り方の中で、もう一つ大きな問題があります。「機器の文字と手書きの文字」ということです。これは「書育推進協議会」の活動に関係する大きなテーマだと思っています。



情報機器が発達すると誰でもが、きれいな読みやすい文字を記せるようになります。それは情報伝達の効率を高め、また読み取りも快適化します。癖のある手書き文字より、整った同じ規格の文字で印刷されている方が読み取りやすい気持ちの方がよいといえますが、しかし、手書きが減少して印刷された文字がどんどん増えていくと、どういったことが起きるでしょうか。

機器の文字は「規格化された音声」に喩えられます。冷蔵庫や電子レンジやカーナビが人の声でいろいろなことを伝えてくれる、それです。

手書きの文字は「個人の肉声」に喩えられます。生活の中から個人の肉声が消えてしまったらどういふことになるのでしょうか。私たちは肉声の特徴を信頼の拠り所に生活しています。手書き文字は規格化され



ていませませんが、味わいがありますし、筆跡から書き手の気持ちや人柄が伝わります。

機器の文字は人工の音声で、手書きの文字は「肉声」に相当する、それくらい手書き文字は大事だと思うのです。

書き手の気持ちまでも伝達できる「手書き文字」の持つ要素を大切にするためには、社会がどのような認識や姿勢を共有しなければならないか。それが情報化社会に対応した重要な課題だと思うのです。先生方には、そういうお考えで社会をリードしていただきたいと思っています。=抜粋=

■全文は下記URLで公開中

http://www.jwima.org/shoiku/images/study/shoiku_forum.pdf

書育推進協議会会報「書育3号」11月1日号発行



- 頁1 第一回総会、書育フォーラム開催
- 頁2 林 史典先生講演「情報化と漢字—「改定常用漢字表」の意義—
- 頁3・4 書育実践研究会報告
- 頁4 長崎大学「書育&音育」催事開催告知
- 頁5・6 会員寄稿
あんな書育 こんな書育
- 頁7 書育実践賞創設
- 頁8 お知らせ

JWIMA発行 米国貿易統計2009より

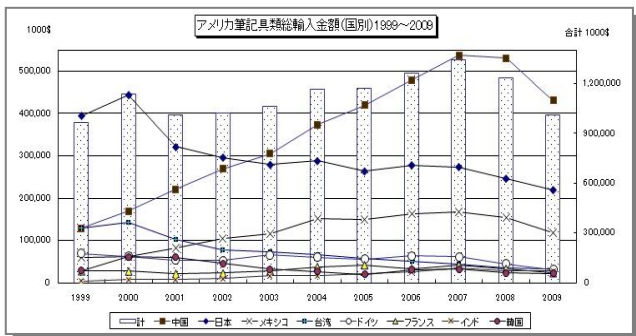
2009年の米国筆記具輸入は、前年9月のリーマン・ショックによるとみられる消費萎縮を顕著に反映した内容になった。09年の米輸入総額(部品を含む)は10億ドル強で、前年に比べて約18%、約2億ドル強下落した。主要筆記具7品目の輸入額は8億4306万ドルで、前年比19.4%減だった。この激しい需要不足は2001年に起きた同時多発テロ事件以来で、リーマン問題が米国民の雇用・消費に与えた影響の深さが伝わる。

米筆記具輸入額の約5割を占めるボールペンは25.4%減とかつてない下落率だった。出荷国は、中国31%減、日本18%減、メキシコ22%減と影響を受けた。一方、インドと韓国は対米出荷を増加させた。

マーキングペン輸入額は15.6%減少した。出荷国は、中国10.6%減、日本8%減、メキシコ48%減だった。出荷第二位の日本の単価は07年から徐々に上昇し、09年は当該輸入品平均の2.4倍、中国品の約3倍になった。

シャープペンシル輸入額は8.5%減少した。出荷国のシェアに変化はなかったが、第二位の日本の単価はマーキングペンと同様上昇し、中国製品の6倍強に達した。

鉛筆は消費不振の中でも手堅い動きを示した。数量は0.7%減、金額は6%減だった。最大出荷国の中国は数量を6%伸ばし、金額を3%減少させた。第二位のブラジルは金額で22%減だった。これに台湾、インドネシア、コスタリカ、メキシコが続き、激しいシェア争いを繰り返した。



JWIMA発行 中国貿易統計2009より

09年の中国筆記具類の「輸出」金額(部品を含む)は、14億6千万ドルで、前年に比べて16.5%縮小した。金額も数量も1品目を除いてすべて大幅に下落した。中国の筆記具輸出は過去10年、典型的な右肩上がりの成長曲線を示したが、世界同時不況から逃れることはできなかった。

ボールペン輸出額は23.3%減少させた。当該品の対米輸出は全体の2割程度で、米消費の不振より、他の国の需要不足が輸出を滞らせた。

マーキングペン輸出額は7.8%減、数量で9.4%減とやや穏やかな減少率だった。シャープペンシルは額で15.3%、数量で12.7%減だった。輸出先として4割を占める米国は微減で、欧州、中南米、アフリカ向けなどの他の国への輸出が35%減少した。

鉛筆輸出額は5.4%減と09年中、最も穏やかな減少率だった。当該品の対米輸出は全体の17%前後で年を追って低下。一方、中南米、アフリカなどの「他の国」への輸出が6割を占めて久しい。



09年の中国筆記具類の「輸入」に注目した。世界同時不況が猛威をふるった09年、中国の筆記具輸入は7.8%増加した。輸入総額1.8億ドルは輸出総額14.6億ドルの1割程度に過ぎないが、世界同時不況に微動だにしない消費意欲を示した。ボールペン輸入額は42%増、製図用ペンは287%増、鉛筆は19%増だった。おしなべて09年は単価が上昇した。中国への出荷国は、日本とドイツが首位を争っていて直近はドイツ21.3%、日本20.1%だった。生産で見せた中国のエネルギーが消費でも顕著になりつつある。

